

※現時点で設定されている事業をベースに作成している。

基本方針	細目方針	目標指標（案）	定義	データの出典	候補となる主な理由と留意点	他自治体の例	他自治体において 当指標により計測されている「目標」	市民への わかりやすさ	施策実施後の 説明力	データ入手の 容易性 ・継続性
1.多世代が交流する、便利で住みよいまちづくり	①まちなかでの仕事・暮らしのコーディネート	【第2期から継続】 中心市街地社会増減数	区域内の居住人口の社会増減数（転入者数－転出者数）	住民基本台帳	・全国的な少子高齢化による自然減は今後も進展するとみられること、まちなか居住の推進による事業効果を数値として捉えやすい指標であるため。	兵庫県伊丹市(R3) 富山県富山市(R3) 富山県高岡市(R3) 鳥取県倉吉市 (R2)	・あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町（まち） ・多世代が集い、良質な暮らしを享受できるまち ・まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実 ・みんなで積極的に住みたくなる暮らしの賑わい再生を目指すまち	○	○	○
	②子育て世代が暮らしやすい生活環境、建物づくり	中心市街地の45歳未満居住人口	区域内の45歳未満の居住人口（ファミリー層・生産年齢人口の定着の目安として）	住民基本台帳	・まちなか居住において、特に若年層・子育て世代の居住を推進していることから、その効果を数値として捉えやすい指標であるため。	鳥取県鳥取市(R4) 石川県金沢市(R3)	・若年層のまちなか暮らしの促進 ・まちなかの定住者を増やす	○	○	○
		中心市街地への移住者数	伊賀市の移住コンシェルジュを通して中心市街地へ移住してきた人数	移住コンシェルジュからのデータ提供	・移住コンシェルジュを通じて伊賀市への移住に前向きな検討をして実行された方々の実態を把握する数値として、その効果が捉えやすい指標であるため。	—	—	○	○	○
	子育て包括支援センター年間利用者数	伊賀市子育て包括支援センター（ハイトピア伊賀）の年間利用者数	市による調査	・子育て支援の事業効果を直接的に捉えやすい指標であるため。 ・ただし、まちなか全体の子育て世代が暮らしやすくなっているかというアウトカムの視点からは十分な把握が難しい。	—	—	○	△	○	
③歩いて生活できる環境づくり	【第2期から継続】 中心市街地の歩行者・自転車通行量	中心市街地6地点の歩行者・自転車通行量の合計値	市による調査	・歩いて生活できるまちなかの環境づくりの効果を把握する上で、最も直接的にアウトカム効果を捉えられる指標であるため。 ・今後も引き続き指標として把握するため、デジタルを活用したデータ入手について検討する。	埼玉県志木市(R4) 茨城県水戸市(R4) 高知県高知市(R4) 熊本県熊本市(R4) 広島県三原市(R4) 岐阜県岐阜市(R4) 山口県山口市(R3) 徳島県徳島市(R3) 富山県富山市(R3) 富山県高岡市(R3) 石川県金沢市(R3) 滋賀県東近江市(R3)	・出歩きたくなる環境づくり ・にぎわい向上 ・おまちのさらなる魅力向上と賑わいの回復 ・にぎわいの創出と回遊性の向上 ・賑わいの創出 ・時間を消費したくなるような魅力づくり ・交流と創造による来街機会の創出 ・回遊者数の増加 ・商業・賑わいの再生による活力ある歩きたくなるまち ・交流人口の拡大 ・ウォーカブルなまちなかを形成する ・回遊者数の増加	○	○	△	

※現時点で設定されている事業をベースに作成している。

基本方針	細目方針	目標指標（案）	定義	データの出典	候補となる主な理由と留意点	他自治体の例	他自治体において 当指標により計測されている「目標」	市民への わかりやすさ	施策実施後の 説明力	データ入手の 容易性 ・継続性
	①歩いて楽しい、立ち寄りたくなる城下町の拠点づくり	【第2期から継続】 中心市街地の観光交流施設の利用者数	中心市街地での観光客・来街者数を把握	観光交流施設からのデータ提供	・歩いて生活できるまちなかの環境づくりの効果を把握する上で、最も直接的にアウトカム効果を捉えられる指標であるため。 ・現状の調査地点には城下町の拠点が含まれていないため、回遊性の効果を図る視点から、城下町の拠点を追加して把握する。	鳥取県鳥取市(R4) 徳島県徳島市(R3) 富山県高岡市(R3) 石川県金沢市(R3)	・地域資源等を活かした交流人口の拡大 ・来街者数の増加 ・交流人口の拡大 ・歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける	○	○	○
		中心市街地内の宿泊者数	中心市街地に立地する宿泊施設の年間宿泊者数の合計	各宿泊施設からのデータ提供	・宿泊を促進することにより滞在時間は長くなり、立ち寄る拠点が増え、ひいては回遊性の向上につながることで期待できるため、その効果を把握するための指標であるため。 ・ただし、その他の来訪者・居住者の回遊性については十分な把握が難しい。	熊本県熊本市(R4)	・にぎわいの創出と回遊性の向上	○	○	○
		伊賀鉄道駅乗降人員	中心市街地エリア内の伊賀鉄道4駅の乗降人員	伊賀鉄道からのデータ提供	・まちなかに立ち寄り拠点を増やし、体験メニュー等の既存の資源の提供により魅力を高め、回遊を促進することが必要であるため、その効果を把握するための指標となり得るため。 ・ただし、伊賀鉄道による調査では特定の1日の数値となっているため、事業効果を把握する指標として用いるには検討の余地がある。	—	—	○	○	○
2.回遊したくなるまちなかの魅力づくり	②既存の魅力ある資源の活用・磨き上げ・情報発信	【第2期から継続】 空店舗等活用件数	対象事業の実施により空店舗が活用された件数	空店舗等情報システム整備及びコンサルタント事業による把握データ	・空き家・空き店舗等の活用は重要課題であり、これらをまちなかの既存の魅力ある資源とみなし、その活用によりまちなかの活性化を実現する観点から、重要な指標と考えられる。 ・住居と併用しているため活用につながっていない物件が問題となっていることから、このような物件についても併せて把握することが望まれる。	—	—	○	○	○
		伊賀上野まち百貨店出店者数	「伊賀上野まち百貨店」への出店者数	実施主体からのデータ提供	・既存の商店街の個店の魅力向上や情報発信によりまちなかの回遊性を促進することが必要であるため、その効果を把握するために「まち百貨店出展者数」を指標として提案する。	—	—	○	△	○
		「伊賀上野まち百貨店」公式Instagramフォロワー数	「伊賀上野まち百貨店」公式Instagramのフォロワー数	実施主体からのデータ提供	・既存の商店街の個店の魅力向上や情報発信によりまちなかの回遊性を促進することが必要であるため、その効果を関心層の数の側面から把握するための指標となり得るため。 ・効果の把握が当事業のみに限られる可能性がある。	—	—	○	△	○
		伊賀鉄道一日フリー乗車券の発売枚数	伊賀鉄道を1日何度でも乗降できるフリー乗車券の発売枚数	伊賀鉄道からのデータ提供	・伊賀鉄道は伊賀市の重要な地域資源と捉えられていることから、この利用がどの程度されているのかを把握するための指標となり得るため。 ・ただし、資源活用の効果について、伊賀鉄道のみ限定される。	—	—	○	△	○

※現時点で設定されている事業をベースに作成している。

基本方針	細目方針	目標指標（案）	定義	データの出典	候補となる主な理由と留意点	他自治体の例	他自治体において 当指標により計測されている「目標」	市民への わかりやすさ	施策実施後の 説明力	データ入手の 容易性 ・継続性
3.伊賀の強みを誇りとして継承するまちづくり	①次世代に伝えたい「伊賀らしさ」の共有と継承	上野天神祭来場者数	「上野天神祭のダンジリ行事」への来場者数	実施主体からのデータ提供	<ul style="list-style-type: none"> ・「上野天神祭」は、伊賀の強みを守り誇りとして継承するまちづくりの象徴として、市民にも伊賀独自の資源として認知されていることから、当基本方針の達成状況を把握する指標となり得るため。 ・ただし、天候による影響を大きく受けることから、効果を正確に把握できない可能性がある。 	—	—	○	○	△
	②官民連携による伊賀らしさを活かすにぎわいづくり	【第2期から継続】イベント参加者数	中心市街地で継続的に実施されているイベントの参加者数の合計値	各イベントの主催者からのデータ提供	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地のにぎわい創出に関して、どの程度の交流人口が中心市街地で発生しているかを把握できる指標であるため。 ・ただし、コロナ禍に中止するイベントがあったこと、結果が天候に左右されること、データの継続性の観点等から事業の達成効果を評価することが難しい。 	—	—	△	△	○
		中心市街地における新規開業数	区域内で新規開業した店舗・事業所数	検討中	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な起業ニーズを中心市街地のにぎわい創出等につなげていくことが求められることから、中心市街地においてどの程度新たな事業活動が生まれているのかを把握するための指標となり得るため。 ・また、当指標により、中心市街地の次世代を担う新しい人材による持続的なまちづくりの側面も計ることが可能と考えられる。 	茨城県水戸市(R4) 高知県高知市(R4) 山口県山口市(R3) 静岡県静岡市(清水地区)(R3) 富山県高岡市(R3) 滋賀県東近江市(R3) 鳥取県倉吉市(R2)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所等の立地促進 ・暮らすにも働くにも「ぼっちり」なまち ・求心力のある商業・業務エリアの形成 ・訪れたい港町 ・まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実 ・多様な店舗やオフィスが集積する商業のまち ・多種多様なビジネスが活性化し地域の商業活動の発展を目指すまち 	○	△	○
	③誰もが参加できる情報共有・交換の場づくり	—	—	—	—	—	—	—	—	—